

半農半Xを目指す若手経営者、現在奮闘中！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



山本農園
(山本郡三種町)
代表 坂本 永遠(とわ)



山本農園

経営概況

経営面積 | ガラス温室:0.2a、畑:5a
作物 | 花卉(カラーリーフの苗、アスター、百日草等)
構成員 | 1名(本人)
販売先 | 産地直売所「じゅんさいの館」、ネット通販等

みなさん「カラーリーフ」はご存じでしょうか？主に花壇や鉢花の寄せ植え等に用いられ、銅葉や斑入り、黄葉、銀葉等色とりどりの色彩をもった植物です。このカラーリーフの苗を生産から販売までをたった1人で行う21歳の若手生産者、坂本永遠さんが経営する「山本農園」が開園して2年目を迎えました。

▶ きっかけ

三種町出身の坂本さんは、幼い頃から祖母の畑仕事を手伝うことが好きだったこともあり、農業全般を学ぶことができる能代科学技術高校に進学しました。在学中は、農作物の生産をはじめ、最先端のスマート農業やインターネット通販での農作物販売等について学びました。卒業後の令和4年4月に、地元で植物を生産、販売する会社に就職しましたが、働くうちに「自分のやり方で、好きな植物を生産して販売してみたい。」との思いが強くなり、令和6年1月に「山本農園」を開園しました。(名称は、自身が暮らす地域名の「山本地域」からつけたそうです。)



山本農園ガラス温室

▶ 取組

開園にあたっては、カラーリーフ苗専門の生産・販売業と決め、極力経費

を掛けず、1人でも事業が展開できるよう、自宅敷地内に小規模なガラス温室を建てて生産を開始しました。約20種類のカラーリーフ苗を春と秋、年2回の販売に合わせて生産しています。栽培技術については、これまでの経験と、持ち前の探求心をいかし、インターネット等から、日々、情報収集しているそうです。



ガラス温室内で育つカラーリーフの苗

販売当初は、「誰も買わないのでは・・・。」「本当に売れるのだろうか？」と疑心暗鬼だったそうですが、SNS等の口コミがきっかけで問い合わせや反響があり、自分でもびっくりしているとのこと。購入者の中には、「買って良かった。」「すごく立派できれいな苗で感動した。」と言ってくれる人がいて、嬉しかったそうです。また、カラーリーフ苗の販売だけでは収益の確保が厳しいと

考え、自宅敷地内の畑でお盆用の切り花(アスター等)の生産をしています。産地直売所での売れ行きも好調で、大きな収入源となっているそうです。



生育状況を確認しながら作業する坂本さん

▶ これから

今後は、品質を落とすことなく1人で管理できる範囲で、規模拡大を検討しています。また、冬場の収益確保が課題となっていることから、将来、半農半Xも視野に行政書士等、得意な法律分野の資格取得に向け勉強しているそうです。坂本さんは、「農業だけに捉われず、幅広く、興味のある事に挑戦していきたい。資格を取得すれば、自身はもとより地域農業者の力になれると思う。」と話してくださいました。

(●印写真:山本農園提供)



東北農政局秋田県拠点